

第2章 都市の将来像



第2章 都市の将来像

見附市では現状と課題を踏まえ、今後のまちづくりを進めていくうえで基本理念を示し、目指す都市将来像を見据えて基本目標や重点目標などを設定します。

(1) まちづくりの基本理念

「第4次見附市総合計画(平成18(2006)年策定)」に掲げられた基本理念に即して、都市計画マスタープランのまちづくりの基本理念は「住みたい 行きたい 帰りたい やさしい 絆のまち みつけ」とします。

これは人が織り成す元気や活力、ぬくもりを生かして、誰もがいきがいと幸せを感じられるとともに、安全で安心な暮らしやすいまちを目指すものです。



花・花ランド

◆まちづくりの基本理念

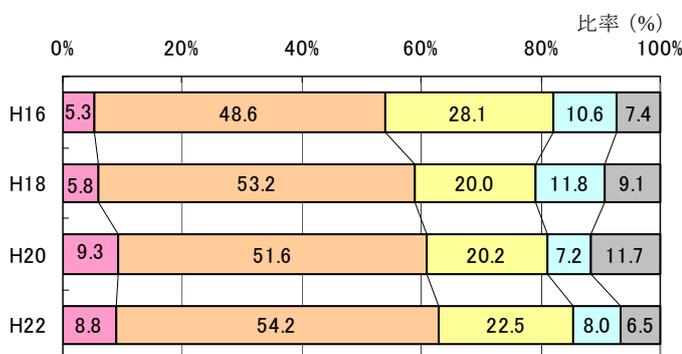
「住みたい 行きたい 帰りたい
やさしい絆のまち みつけ」

見附市まちづくりアンケートの調査結果では、まちの魅力が増えてきたと感じる方は6割を超え、魅力がなくなってきたと感じる方は3割程度まで減少するなど、市民の見附市に対する満足度は少しずつ向上してきており、市民が見附は住みやすいまちと感じています。

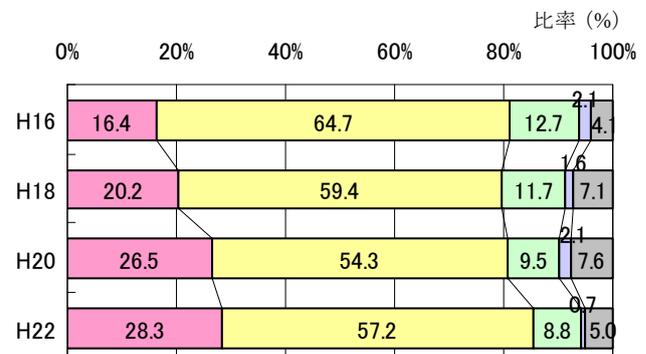
今後も第4次総合計画の示す基本理念を標榜し、見附市をはじめ、広域で抱える問題も踏まえながら、活力に満ちた安全で安心な暮らしやすいまちを目指します。

見附市まちづくり市民アンケート調査結果より

- 大きく魅力が増してきた
- 多少魅力が増してきた
- 住みよい
- どちらかといえば住みよい
- 多少魅力がなくなってきた
- かなり魅力がなくなってきた
- どちらかといえば住みにくい
- 住みにくい
- 無回答



見附市は魅力あるまちになってきたと思いますか？
「魅力が増してきた」と感じる人の割合



見附市は「住み良いまち」ですか？

(2) まちづくりの目標

まちづくりの目標についても「第4次見附市総合計画」を受けて、基本目標を次のように定めます。また、まちづくり市民アンケート結果や新潟県や中越地域といった広域地域で抱える課題等を踏まえ、見附市が魅力ある都市として発展していくための都市政策の重点目標を定めます。

見附市の特性

- ・ 恵まれた交通体系(高速道IC、国道8号、JR 見附駅)を持つ
- ・ 新潟県の地理的な中心に位置する
- ・ 長岡市、三条市に隣接、中越地域の副次的機能を担う
- ・ 繊維関連からプラスチック・金属等へ産業構造が変化
- ・ 平野、丘陵、刈谷田川など豊富な自然に囲まれている
- ・ 見附テクノ・ガーデンシティ(中部産業団地)、医療の里等の拠点の立地

基本目標

都市の将来像1. 人と自然が共生し健やかに暮らせるまち

- ◆ 健康でだれもがいきいきと暮らせるまちづくり
- ◆ 豊かな自然に囲まれ環境にやさしいまちづくり
- ◆ 個性のある景観あふれるまちづくり

都市の将来像2. 安全安心な暮らしやすいまち

- ◆ 災害に強く、事故や犯罪のないまちづくり
- ◆ 効率的で安全な道路と快適な公共交通のまちづくり
- ◆ 誰もが快適に暮らせる住環境のまちづくり

都市の将来像3. 産業が元気で活力あるまち

- ◆ 若者にも魅力ある働き場があるまちづくり
- ◆ 新たな優良企業が進出しやすいまちづくり
- ◆ 中心市街の商業地と新興商業地が共存できるまちづくり

都市の将来像4. 人が育ち人が交流するまち

- ◆ 多くの人が集まる交流拠点のあるまちづくり
- ◆ 地域のコミュニティが充実したまちづくり
- ◆ 市民参加のまちづくり

都市政策の重点目標

交流拠点

目標1
広域から多くの人が集まり交流する拠点の形成

暮らし

目標2
安心・安全で快適な生活環境の整備

交通

目標3
利便性が高く、環境にやさしい交通環境の形成

景観

目標4
自然と歴史を活かした個性ある景観づくり

見附の活性化

中越地区の活性化

新潟県の活性化

見附市が抱える課題

- 若年転出に伴う人口減少の抑制 (H7年 43,760人→H17年 42,668人)
→ 若者にも魅力ある就業の場、都市拠点の形成 (国勢調査)
- 増加する高齢者にとっても暮らしやすい社会の形成
- 市内買物依存割合の向上と地域経済活性化
- 事務系の職場不足
→ 産業構造の重層化による力強い産業経済の構築
- 市街地を中心とした総合的な浸水被害対策

中越地域が抱える課題

- ・ 文化系学生の働き場の確保
求人倍率 事務職 24才以下:0.22、25~34才:0.11
専門技術職 24才以下:1.09、25~34才:0.50
※求人倍率: 求人数/求職者数 (H22.5 ハローワーク長岡求人求職バランスシート)

事務職の
求人不足

新潟県が抱える課題

- ・ 人口減少と活力低下の抑制
H7年 249万人→H17年 243万人→H27年予測 229万人
→ 県内各地域での転出防止策の実施
→ 企業採用枠の拡大 (国勢調査及びコーホート要因法による人口推計)
- ・ 北陸新幹線延伸に伴う地域衰退(高崎以北の本数減少)
① 交流機能低下による地域経済の悪化
② 上越の北陸経済圏化による県内活力の低下
③ 地域間競争における優位性低下

人口減少
活力低下

2014年
問題

新潟県「夢おこし」政策プラン … 住みたい新潟、行ってみたい新潟
産業夢おこし → 県民がより多くの収入が得られる仕事に就くこと
くらし夢おこし → 県民が安全安心で生きがいを持って暮らせること

これまで企業誘致等により市民の「働き場所の豊富さ」への不満は徐々に改善されてきてはいますが、8割を超える人が不満を感じています。

～H22年度まちづくり市民アンケートより～

- 不満に感じること(「やや不満」と「不満」の合計)
- ① 働き場所の豊富さ (81.2%)
- ② 観光レクリエーション施設の整備状況 (59.2%)
- ③ 医療、福祉施設の整備状況や体制 (47.5%)
- ④ 道路除雪や消雪パイクの整備状況 (41.9%)
- ⑤ 公園緑地や広場などの整備状況 (40.8%)

見附市を取り巻く社会環境の変化

- ・ 人口減少や少子高齢化の進展
- ・ 農家の減少、従事者の高齢化
- ・ 中心市街地の空洞化と既存商業地の衰退
- ・ 自動車利用増大、路線バス減少
- ・ コミュニティ意識の希薄化

社会環境の変化
により求められる
都市構造

まちづくりの前提条件

～誰もが安心して暮らし続けられるまち～

コンパクトな都市の形成

コンパクトな都市とは?

市街地の無秩序な拡散を抑制し、緑豊かな環境の中で、住宅や商業・医療・福祉などの各施設が集積し、歩いて暮らせる区域(市街地)と、自然に囲まれた周辺集落地を、公共交通で結合した、過度な車依存のない、快適・便利で安心なまち。

(3) 都市政策の重点目標

目標1 広域から多くの人が集まり交流する拠点の形成

- 見附市内外の多くの人々が余暇を楽しめる広域的な交流機能を整備します。
- 交流拠点を整備することにより若者の働き場を確保し、さらに住宅施策との連携により、市内への若者定住を促します。
- 特色ある店舗や観光・レクリエーション施設等の整備により、恵まれた交通条件を活かしながら交流人口の増加を促し、活力あるまちを目指します。
- 既存商店街との調和を図りながら、見附市全体および新たな拠点の周辺地域など近隣都市圏も含めた賑わいづくりを目指します。

目標2 安全・安心で快適な生活環境の整備

- 貝喰川などの河川改修を推進し、浸水被害のない安全なまちを目指します。
- 自然環境と調和しつつ、ゆとりと潤いがある心地良い住宅地を供給し、定住人口の増加を目指します。
- 公園、下水道など生活基盤の整った良質な住宅地や多様なライフスタイルに応じた魅力ある住宅の供給を図ります。
- 住宅密集市街地における延焼防止や耐震化等、防災機能の向上を図ります。
- 歩道や交差点の改善、緊急時における円滑なアクセスルートの確保など、安全で安心して暮らせる都市基盤の整備を推進します。
- コミュニティ施設の充実と地域間の交流の活性化を図り、地域の人々が助け合い、支え合って暮らせる共生社会の形成を目指します。

目標3 利便性が高く、環境にやさしい交通環境の形成

- 幹線道路の整備などにより、効率的な交通ネットワークを形成し、安全で円滑な交通の確保を図ります。
- 鉄道やバス等と効率よく連携し、誰もが利用でき、地域のニーズに即した公共交通網の整備を進めて、過度な自動車依存からの脱却を図ります。
- 市民との協働で景観に配慮した道路空間整備を推進します。
- 歩行空間や交通結節点などにおいては、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備に努めます。

目標4 自然と歴史を活かした個性ある景観づくり

- 刈谷田川をはじめとした河川や森林など、ふるさとのかけがえのない環境資源の積極的な保全を図るとともに、市民の憩いの場などとして有効活用を図ります。
- 都市生活に潤いを与える緑地空間として、また安全で安心な食料の生産基地として、市街地を取り囲む広大な水田地帯の保全に努めます。
- まちなか、集落地、道路沿い等、緑につつまれた個性あふれる都市景観の形成を図ります。
- 文化財・遺跡や伝統行事などの歴史資源を保全・活用し、地域の特色と魅力を活かした個性ある景観づくりを推進します。

(4) 将来都市構造

将来都市構造は、都市の将来像を実現するためのまちづくりの理念や目標を踏まえた都市ビジョンの考え方や視点を明らかにするもので、将来の見附市の骨格を空間的、概念的に示すものであります。

1) 将来都市構造の基本的な考え方

1. 都市構造の考え方

見附市では、社会資本投資の効率化の観点から見附地区と今町地区の2つの市街地の一体化を推進してきました。今後も2つの市街地の連帯、連携を進め、計画的に市街化を推進していくため、次の3つの要素から将来都市構造を考えます。

① 個性と魅力ある拠点整備と連携強化

人口減少、少子高齢化が進むなかで、既存の都市基盤の有効利用や再活用を進め、各地域拠点の個性や魅力を磨きながら、それぞれの担う役割を高めていく必要があります。また、各地域の拠点間の連携を強化し、市全体の一体性を強めていくことで、都市の総合力を高める必要があります。

② 広域都市圏の連携強化

隣接する市外の都市拠点との適切な役割分担や補完を図りつつ、広域から多くの人が集まる広域交流拠点としての役割を果たしていかなければなりません。

③ 計画的な土地利用

周辺の環境や景観等と調和した暮らしやすい居住空間や人々が活発に交流するにぎわいのある空間など、豊かな自然環境を保全するとともに計画的な土地利用を推進し、効率的で環境負荷の少ない土地利用を進める必要があります。

2. 都市構造の設定

「拠点」として「商業地」「交流地区」「工業・流通地区」「行政地区」「医療・福祉地区」「公園・緑地」を設定します。これらは、それぞれの位置や地域資源など、地域の個性や魅力を活用し、機能を集積することで、総合的な都市機能の向上を目指します。

「交流地区」は、さらに、近隣都市圏等との交流によりにぎわいを創出する「広域交流地区」、地域生活における交流生活拠点で、国道周辺のにぎわいを市街地へ誘導する中間拠点としての機能も有する「地域交流地区」、近隣都市圏と交流する公共交通ネットワーク拠点のほか、見附市街地・今町市街地を連絡する公共交通ネットワーク拠点としての「駅前交流地区」を設定します。

「都市軸」は、「広域軸」「地域幹線軸」「循環軸」「河川軸」を設定します。これらは、連続した空間で各拠点を結び、周辺の土地利用を誘導することで、都市の発展を支えます。

そのほか、近隣都市との交流や連携、市街地の渋滞緩和、地域間交流や生活を支える「交通網」や、まとまりのある同一の土地利用のエリアを示した「土地利用」を設定します。

2) 見附市の将来都市構造

1. 広域地域における見附市の役割と連携強化

見附市は新潟県のほぼ中央に位置しており、市域を縦断する北陸自動車道は、首都圏、北陸・関西圏、東北圏のクロスポイントになっています。また上越新幹線や新潟空港など高速公共交通機関の充実により、中越エリアとしては首都圏から、さらに視野を広げると環日本海において新潟県は東アジアと関わっていくなかで地理的な優位性を持っています。

しかし、今後見込まれる北陸新幹線の開通等により、首都圏や北陸・関西圏との交通アクセスルートの変更による交流人口の減少が予想されることから、他の都市圏と比べて埋没することなく、確固たる存在感を築いていくためには、今まで以上に都市間の交流や連携を活発にして、都市圏全体で活気を生み出していく必要があります。

見附市ではこうした地理的な優位性を活かして、中越地域の都市圏を担う都市拠点の1つとして、隣接する市外の都市拠点との活発な交流・連携を進め、役割や機能の適切な分担、補完を図り、個性と魅力にあふれる地域として吸引力の高い広域拠点を目指します。



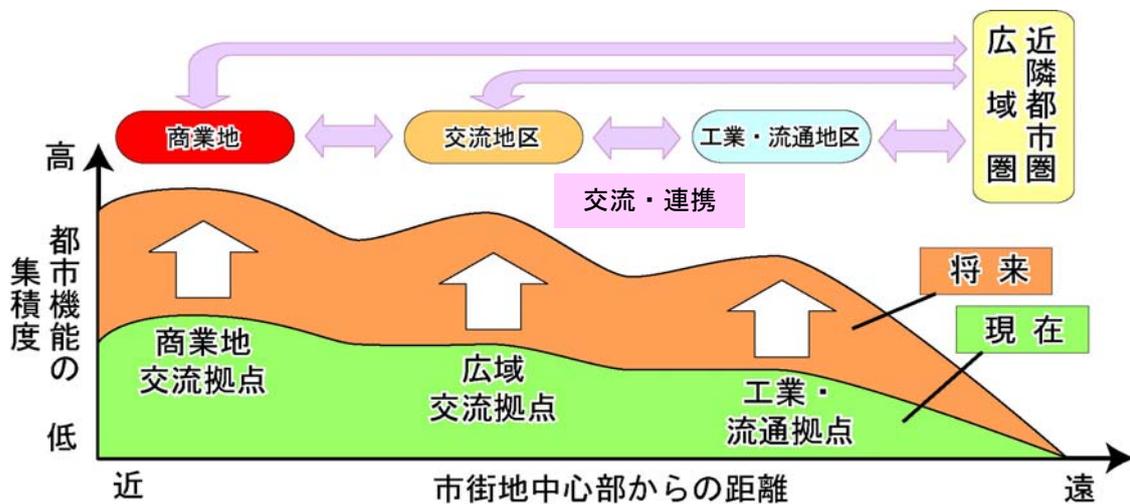
第2章◇都市の将来像

2. 個性と魅力ある拠点整備と連携強化

① 拠点の機能向上

いつまでも住み続けたいと思えるようなまちづくりを推進するため、住居、商店、福祉施設などを適切に配置し、日常の生活利便性が高い暮らしやすい生活環境の整備を推進することが必要です。このため、各拠点が担う生活機能を集積し、適切に配置を進めて、地域ごとにそれぞれの拠点性を高めることで、質の高い都市空間を構築します。

このことから、北陸自動車道中之島見附ICや国道8号の利用による近隣都市や首都圏等からのアクセスが容易な上新田地区を**広域交流拠点**とします。見附**テクノガーデンシティ（中部産業団地）**は、**産業・流通拠点**として今後も優良企業の誘致を進めます。なお、各拠点の整備にあたっては、既に整備された都市機能を有効に活用するほか、市街地の拡大が必要な場合は、保全すべき農用地や樹林地を守りながら、計画的な整備を進めます。



② 地域連携と交通ネットワークの形成

人々が魅力を感じ、訪れたり、安心して定住するためには、日常生活においてまた市外との交流においても見附市全体の都市力の向上が欠かせません。このため、各拠点の機能集積や整備を進めるとともに、広域交流拠点や地域交流拠点、産業拠点など、各拠点のネットワーク化を図り、連携を強めていくことが重要です。このことから、見附市の都市交流を支える道路交通ネットワークの整備を進めます。

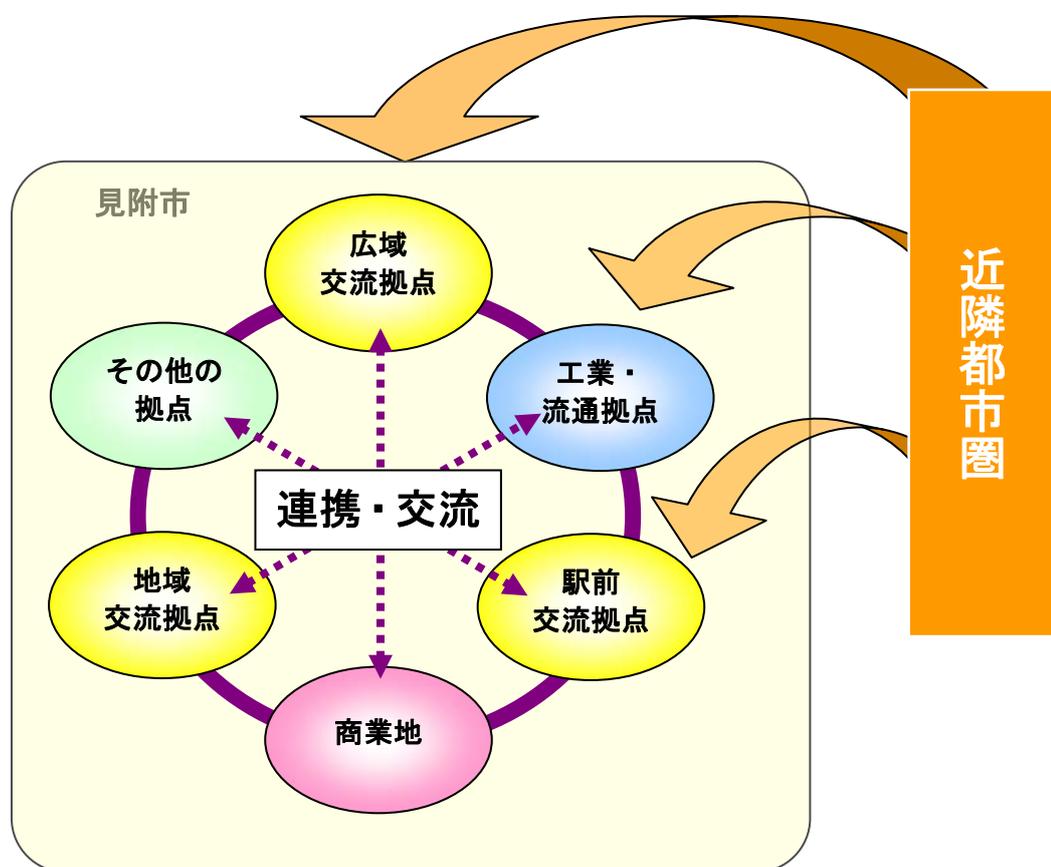
北陸自動車道中之島見附ICや国道8号は広域交通の重要な役割を担う**広域軸**と位置づけます。これは市外都市圏からの主要な広域交通網となります。

主要県道をはじめとする**地域幹線道路**は**地域幹線軸**と位置づけ、主に近隣都市圏との交流など、地域交通の重要な役割を担います。

市内の各拠点をつなぐ**主要な道路**は**循環軸**と位置づけ、各拠点間のネットワーク化や連携の強化を図るとともに、市街地の渋滞を緩和し、円滑な都市交通の促進を図ります。

今後進む高齢化社会や環境問題などに対応するため、公共交通の役割が見直されています。JR信越本線は近隣都市圏との広域交通軸として位置づけます。さらに、市全体の都市力を向上するため、道路交通ネットワークや鉄道を効率的に活用し、また既存路線バスやコミュニティバスなどを利用した自家用車に過度に依存しない公共交通ネットワークの強化を図り、環境負荷が少なく暮らしやすいまちづくりを進めます。

これらの公共交通のネットワーク化や幹線道路、各地域の生活道路等の道路交通のネットワーク化を図り、広域拠点やその他拠点などが交流・連携を強めることで地域交流を活発化させるとともに、近隣都市圏との活発な交流・連携を進め、市全体に賑わいと活気を生み出します。



③ 計画的な土地利用

優良な自然環境の保全を図りながら見附地区と今町地区の2つの市街地の一体化を目指し、社会資本を効率的に投資して自然と人が共生する計画的な土地利用を推進します。

刈谷田川は河川軸として都市の中のゆとりと潤いのある水空間として保全と有効活用を図ります。見附市の東側の丘陵地は、公園・緑地のネットワーク化を進め、保全と有効活用を図ります。

また、地域の資源や特性を生かしながら、周辺環境や景観と調和した土地利用を推進します。

第2章◇都市の将来像

「将来の都市構造」を概念的に示すと下記のとおりとなります。

